

は最初からナメと滝の連続する沢である。

このあとようやくクライミングダウンのできる小滝群の出現となって快適に下る。小滝群をぬけると一〇分のナメ滝となる。ここはともも撻けそうになく、二回目のアップザイレンをして切り抜ける。この後も小滝群が続く。

一二時、二俣に着く。左俣は沢の中にいるよりも、捲いてヤブの中にいる時間の方が長かったかもしれない。

枯松沢は、小滝が無数に出てきて面白かったが、反面、遊行図が混乱する記録者なかせの沢だった。

(記・金谷道洋)

「タイム」 左俣下降開始(一〇:三〇)

↓二俣(一二:〇〇)

中枯松沢

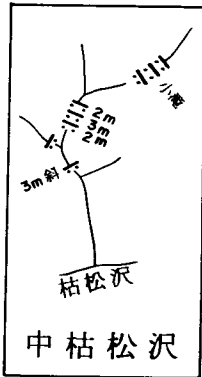
L

一九八四年七月二日

枯松沢の下降途中で、この中枯松沢に寄り道する。出合着一三時五〇分。

一〇分ほど歩くと最初の滝に出会う。問題なく通過。このあと急に沢幅が狭くなってきた。土砂くずれの跡があり、倒木やぬかるみに苦労するようになる。

やがて、尾根が見え始める。雨が降ってきたのと、枯松沢の遊行で二



人共かなり疲労してきたので、尾根には登らず、ここで終了とする。結局、小滝が少しあるだけで、何もないう沢だった。

(記・)

「タイム」 中枯松沢出合(一三:五〇)

↓遊行終了(一五:二〇)

